

令和3年度 公立大学法人青森県立保健大学理事長の選考に係る意識調査結果  
(実施期間：令和3年8月16日(月)～8月27日(金))

対象職員数	154人
有効回答数	116人
回答率	75.3%

1. 望ましい理事長・学長像について

本学の理事長は学長を兼ねることとなっています。次に挙げるものの中から、あなたが本学の理事長／学長に求める資質・能力・業績等について、次の5つを重要と思う順に上から順に並べてください。

1. トップマネジャーとしてのリーダーシップ

ビジョンを打ち出す、意思決定できる、組織を作り上げ維持できる

2. 経営能力

企画・計画力、資金調達力、高い倫理性

3. 教育研究者としての業績

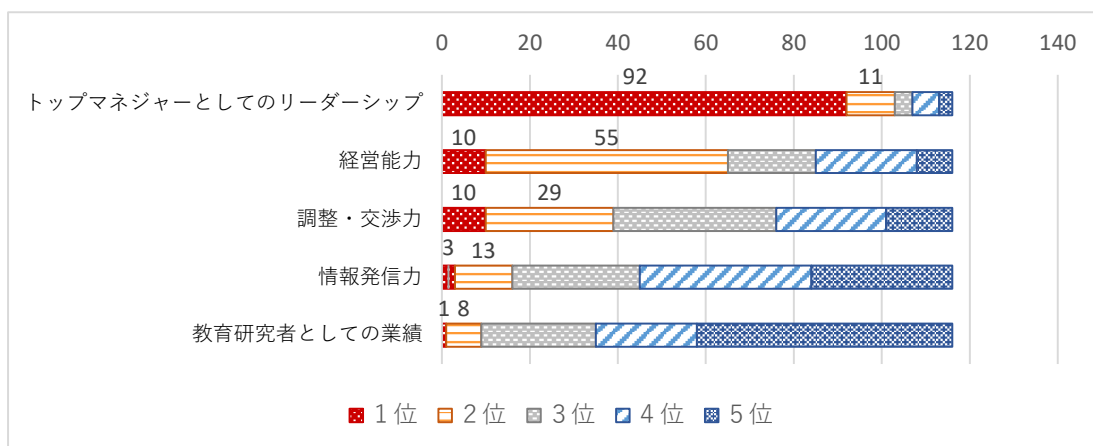
優れた教育・研究・地域貢献活動

4. 調整・交渉力

学内外における折衝・調整力、豊富な人脈

5. 情報発信力

学内外への積極的な情報発信、受け手の理解を得られる情報伝達力、共感を得る力



	1位	2位	3位	4位	5位
トップマネジャーとしてのリーダーシップ	92	11	4	6	3
経営能力	10	55	20	23	8
調整・交渉力	10	29	37	25	15
情報発信力	3	13	29	39	32
教育研究者としての業績	1	8	26	23	58

## II. 青森県立保健大学の進むべき方向性について

本学の第三期中期目標に、使命として掲げている次の5項目について、今後の本学にとって、あなたが考える重要度を回答してください。（5：非常に重要 ～ 1：重要でない）

### 【使命①】 人間性豊かな人材の育成

生命に対する深い畏敬の念と倫理観、人間を総合的に把握し理解できる幅広い教養を身に付けた人材を育成します。

### 【使命②】 保健、医療及び福祉の発展に寄与できる人材の育成

保健、医療及び福祉の連携・協調に向けて能力を発揮し、中核的な役割を果たせる人材を育成します。

### 【使命③】 地域特性へ対応できる人材の育成

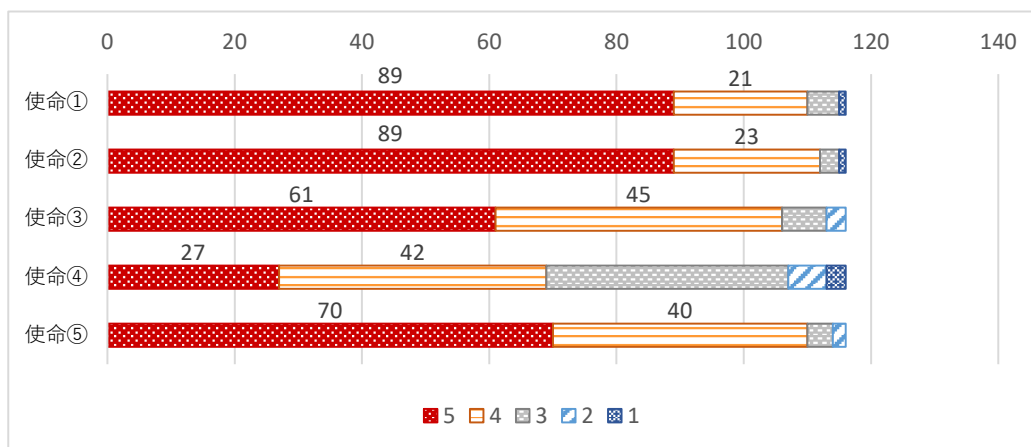
気候、風土、生活習慣など、青森県の特徴を考慮しながら問題解決へのアプローチができる人材を育成します。

### 【使命④】 グローバルな視野をもって活躍できる人材の育成

外国語等のコミュニケーション手段を用い、グローバルな視野をもって活躍できる人材を育成します。

### 【使命⑤】 地域社会への貢献

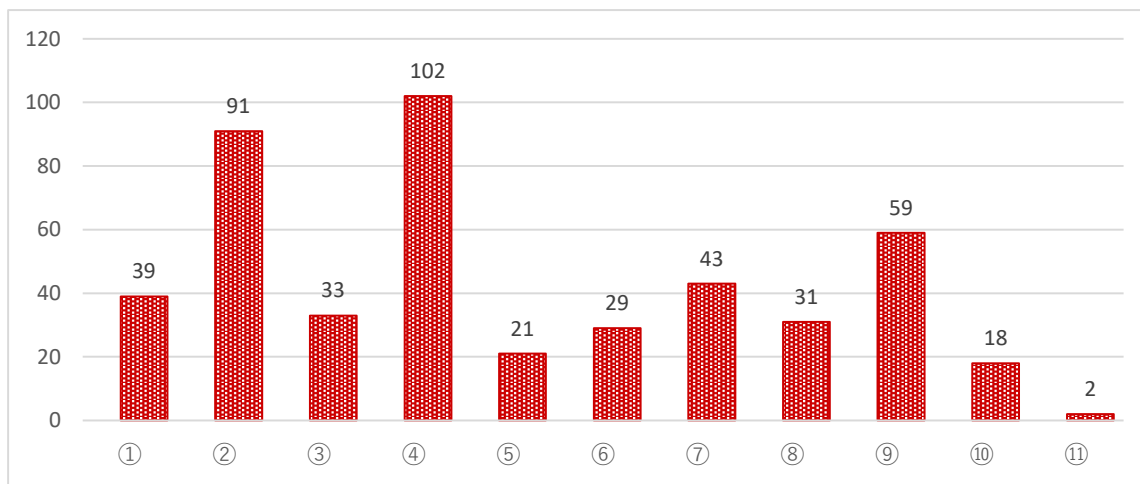
保健、医療及び福祉の教育研究拠点として、教育研究成果を広く地域社会に還元するとともに、産学官民の連携した取組による地域貢献活動を展開し、県民の健康と生活の向上に寄与します。



	5	4	3	2	1	AVE
使命①	89	21	5	0	1	4.70
使命②	89	23	3	0	1	4.72
使命③	61	45	7	3	0	4.41
使命④	27	42	38	6	3	3.72
使命⑤	70	40	4	2	0	4.53

### III. 今後の主要取組について

以下の取組は「青森県立保健大学将来構想」の中で、2025年度までに重点的に取り組んでいく施策として掲げているものです。これらの取組の中で、あなたが特に重要だと思うものを4つ選んで回答してください。



① アドミッション・ポリシーに則った戦略的な学生	39
② 医療及び福祉に貢献できる学生の確保	91
③ カリキュラムに基づく適切な教育及び評価の実施	33
④ 専門性を活かして地域で活躍できる優れた保健医療福祉の人材の育成・輩出	102
⑤ 情報交換の推進	21
⑥ 卒業生のキャリアや活動実績の蓄積・活用と公開	29
⑦ 産学官金の連携強化による地域産業活性化や地域課題解決への貢献	43
⑧ 大学院機能の活用による地域包括ケアのリーダーとなる高度専門職の育成	31
⑨ 継続的な業務の適正を確保するための組織体制の強化	59
⑩ I R機能等の専門性をもった事務職員の育成	18
⑪ その他	2

(その他の意見)

- |                          |
|--------------------------|
| ・大学の幅広い業務に対応できる職員と管理職の育成 |
| ・青森県内へき地に就業できる保健師の育成     |

※ 4つ選択する設問でしたが、4つ以外を選択した回答が4件（7つ：1件、5つ：2件、3つ：1件）ありました。このため、回答の総数が、回答者数×4よりも若干大きくなっていますが、そのまま集計しています。

#### IV.その他

本学の理事長/学長像について、ご意見等がありましたら、記入してください。

1	経営者として、費用対効果を考え、選択と集中を行うことができる方が必要だと思います。 本学の強みを考え、全てに手を出すのではなく「やめる」選択をできることが重要だと思います。
2	教職員の意見に耳を傾け、それぞれのポジションでやりがいを持って働ける環境整備に気を配っていただけることを期待します。
3	将来を見据えた教職員の人材確保・育成に力を入れていただきたい。
4	理念理想に基づき研究教育、社会貢献、組織づくりを推進する中で、一人ひとりの院生学生を育成し教職員を育成し、県民市民に寄り添う活動を深める中で、連携協調し力を合わせていくことができれば幸いです。
5	強いリーダーシップが特に必要だと思いますし、柔軟な大学行政とそれに伴う柔軟な役員登用を期待したい。さらに、いままで行われてきた前学長の路線を改変してもいいので踏襲してもらいたいと思う。高等教育として、学部教育もさることながら、大学院教育に重きを置いて欲しいと考える。
6	教職員のマンパワーを十分に把握し、過労により健康を害するような教職員が極力出ないような経営をしていただきたい。
7	ナルシストである人、自己主張が強過ぎて他人の意見を聞き入れない人、行動と結果・貢献が釣り合わない人、快適な職場環境を築けない人はトップになるべきではないです。
8	学生が大いに活躍できるような教育と学生の将来について、常に考えている方を選んでいただきたいと思っています。
9	コロナ禍の今だからこそ、これまで以上にビジョンをもったリーダーが求められ、内外へ適切かつ積極的に情報を発信していくことが重要になってくると考えます。また社会情勢の変化の中で、学生の募集や今後の経営、組織運営においても戦略をもって対応できる理事長/学長が望ましいと考えます。
10	親しみやすい人がいいと思います
11	これからの時代に内外への発信力と時代に合った施策の実行力が大切だと考えます。大学のブランドイメージの構築などに尽力できる。
12	多角的な視野を持って、実際に現場を定期的に視察し、各業務の状況を把握できる人材。
13	想像ですが、幅広い知識と広い心を持った人、と思っています。
14	変化の激しい時代の中、学長のリーダーシップのもとに新たなことに次々と取り組む姿勢は重要だと考えます。ただ大学の資源も限られていますので、既存の事業や業務の見直し・廃止等も都度合わせて検討いただくことを望みます。
15	四半世紀を迎える本学の刷新を期待します。
16	現理事長のような尊敬できる理事長であって欲しいです
17	健康科学部4学科の教育および教員に関する現状と課題を把握し、それぞれの学科へ適切な指示のできる人。
18	求める資質等は問1で回答していますが、本学の顔となる方ですので、人間性が豊かであること、御自分の言葉で目指す理念について発信すること、本学の未来のために変革に取り組むことを期待します。

19	教職員の業務負担の公平化、限られた人員の中で行える業務量の検討などにも目配せただけでしたら幸いです。
20	<p>大学が置かれる環境は、今後さらに多様化、そして変動することが予想される。引き続き限られたマンパワーでこれに対応していく必要があるため、</p> <p>①短期的に実施すべき事項と、中長期的に実施する事項とをしっかりと分け、リソースを効果的に配分してほしい。</p> <p>②”①”の実施に関連して、以下の取組を進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の選別（スクラップ&amp;ビルド）の確実な実施</li> <li>・教職員個々の業務状況の把握と、これに基づく適切な担当業務の調整（特定の者への業務の偏りを防止する）</li> <li>・部局長、各室課長を通じた事務局職員の「業務習熟度」に応じた人事異動の実施（「室課への在籍年度」のみを参照するのではなく）</li> <li>・各種ハラスメントの予防徹底</li> <li>・非常勤職員の処遇改定の検討（5年を超える雇用を可能にする制度の構築 等）</li> </ul>
21	<p>各部局との連携により大学全体の事業の把握に努め、新規事業・既存事業の見直し・事業廃止を行う等の際は、担当部署の適正や人員のバランスに配慮できる組織作り・マネジメント力に期待したい。</p> <p>また、少ない人員で最大の効果を図るため、個々の従事年数だけに拘らず、業務の流れを考慮した人事異動や、優秀な非常勤事務員が3年の契約を超えて継続的に従事いただけるような制度の見直し等、事務体制にも積極的に関わっていただきたい。</p>
22	現状の体制維持だけでなく、10年以上先の将来を見据えて本学のあり方を考えて行動できる方に学長になってもらいたいです。
23	<p>高等教育機関としての崇高な理想・使命を果たすための、堅実な組織運営を期待します。</p> <p>公立大学法人と大学（教学・社会貢献）それぞれにおけるバランスの取れた経営・運営を行っていただきたい。</p> <p>トップとスタッフが共に同じ道を目指して進んでいけるような組織風土を醸成するためには、より一層適切な人員配置、職場（労働）環境の改善を一スタッフとして望んでいます。</p>